



# 化成だより

令和6年9月30日

令和6年度 学校だより 10月号

東村山市立化成小学校

校長 金原 崇

電話 391-8111 FAX 397-5400

<http://www.fureai-cloud.jp/e01-kasei/>

## 「当たり前」を変えていく

副校長 佐藤 晃二

大リーグ、ロサンゼルスドジャースの大谷翔平選手が9月19日に50本塁打、50盗塁の「50—50」(フィフティ、フィフティ)を達成しました。大リーグの歴史を塗り替える快挙です。昭和の野球少年だった私は、このニュースにとっても元気をもらいました。大谷選手の勢いはとどまることを知らず同じ試合で51本塁打51盗塁を達成しました。今後も記録がどこまで伸びるのかとても楽しみです。

思い返せば昭和の時代は、「日本人は、大リーグでは通用しない。」というのが通説でした。しかし、1995年に大リーグに移籍した野茂英雄投手が大活躍し、通説を覆しました。すると、「野手は、パワー不足で大リーグでは通用しない。」というのが通説となりました。今度は、イチロー選手や松井秀喜選手がそれを覆しました。当時の「当たり前」を覆し偉業を成し遂げた選手たちの活躍は、並々ならぬ努力に支えられたものであることを想像すると尊敬の念が尽きません。

さて、本校の教育活動を振り返ってみると運動会においても近年「当たり前」が変わってきました。かつて運動会の花形であった組体操のピラミッドやタワーは、安全面への配慮から実施できなくなりました。コロナ禍の対策として始まった半日開催は、熱中症等への対策として継続しています。このことについては、様々な御意見があると思いますが、社会情勢の変化や気候変動などを考慮し変化が必要なことは間違いありません

児童にとっての運動会の価値も変化しています。かつては、勝敗を競ったり、高度な技に挑戦したり、完璧に動きをそろえたりと困難なことを成功させ、観客に賞賛されることで達成感を得るという要素が強くありました。近年は、カ一杯体を動かしたり、チームで技を創造したりして運動を楽しむことで達成感を得るという要素が強くなっています。以前に教え子がこんな感想を綴りました。「これまでの運動会は、成功させようと思って緊張していたけれど、今年の運動会は演技を楽しむことができて自然と笑顔になりました。」運動に親しみ、生涯を通じて運動を楽しむ素地を育てる運動会を目指して取組を進めていきたいと思っています。